

谷中圓朝まつり：歴史

谷中圓朝まつりは、谷中の禅寺である全生庵で、8月にかけて催される毎年恒例の祭りです。

祭りの見どころは、幽霊をテーマにした絵画（幽霊画）の展示です。幽霊画は、伝説的な落語（伝統的な口承文学）家である三遊亭圓朝（1839年～1900年）の収集品からのものです。

圓朝の物語の多くは谷中を舞台にしています。圓朝が他界して寺の墓地に埋葬されて以来、全生庵では、この文化的象徴を記憶に留めるための祭りが毎年開かれてきました。しかし、

現在の形式の谷中圓朝まつりが始まったのは1985年のことで、地域の歴史に対する関心を

高めること、そして、不気味な作品の見事なコレクションを展示することが目的でした。コレクションは圓朝が収集したもので、彼の死後、全生庵に寄贈されています。祭りに最適な

時期は8月です。その理由は、圓朝の命日が8月11日であったことだけでなく、幽霊画の

展示が仏教のお盆の期間に特に適しているからでもあります。この期間中、人々は先祖の霊を祀るため、生者の世界に一時的に先祖の霊を迎え入れます。祭りの参加者は、幽霊画の作品以外にも、寺の境内で行われる数々の落語公演を心待ちにすることができます。